



昭和女子大学
現代ビジネス研究所
Institute for Project Learning

News Letter

昭和女子大学 現代ビジネス研究所 | ----- | ニューズレター |

1

Outline

昭和女子大学現代ビジネス研究所について

現代ビジネス研究所は、大学と企業・地域が連携して多様な協働環境を創出し、プロジェクト研究に取り組む学生の教育・支援を行う活動拠点です。「プロジェクト研究」とは、学生のチームが与えられたテーマに取り組み、「学生の立場で現実のビジネスの先取り体験」をするという実践的な学びです。研究所には公募で選ばれた企業・行政機関・NPO等が多様な実務経験を持つ社会人が研究員として所属し、それぞれの経験、知見を基に学生の研究に指導・助言を行います。学生の問題発見・解決力やコミュニケーション力を磨きながら、企業に若い女性のフレッシュな感性や発想力を提供するという、これまでに類を見ない、まったく新しいコンセプトの研究所です。

Greeting



学長挨拶

坂東 真理子

Mariko Bando

昭和女子大学現代ビジネス研究所は2013年4月、いままでに類をみない大学と実社会を結ぶプラットフォームとしての役割を担ってスタートしました。多様な分野で豊かな経験を持つ方々が多数応募され、その中から選ばれた70余名の方に研究員として加わっていただいています。大学からの研究助成を得た調査研究や学生が参加するプロジェクト活動など、様々な取り組みがスタートしています。

1 もともとアカデミックな分野で研究してきた大学教員と実社会の経験を持った研究員の協働により、学生たちに新しい学びの機会を提供する。

2 研究員の方たちに、キャリアの止まり木としてこの研究所を活用し新たなステージに踏み出す機会を提供する。

この二つの目的をもってスタートした研究所です。その原型は私もかつて在籍したことのあるハーバード大学の研究所ですが、新しい専門家集団人材プールとして昭和女子大学の研究・教育に新たな活力を与えつつあります。たとえばこの研究員の方たちの調査レポートが基礎となって2014年5月からはキャリアカレッジもスタートします。すでに多くのプロジェクトや調査研究もスタートしていますが、来年度からは新築の大学校舎に移転し、もっと多くの学生とのプロジェクト活動がスタートする予定です。社会や企業とつながる昭和女子大学の象徴的な役割を果たす機関として今後のさらなる発展を期待しています。

所長挨拶

小原 奈津子

Natsuko Kohara

昭和女子大学現代ビジネス研究所は、産業界・地域と連携する新しい教育・研究環境の創出を目指して2013年4月に開所されました。開所後の1年は、研究所のスタッフにとっては怒涛のように過ぎたような気がしますが、その一方、社会人研究員、研究所員、そして学生によって実に様々な活動が行われました。昭和デザインオフィスを拠点として、本学教員の研究所員の指導の下に、学生たちにより前期21件、後期14件のプロジェクト活動が実施されました。また、70余名の多岐に亘る分野の経験豊富な社会人も研究員として活動を展開しています。研究所から研究助成の補助金を受けて行われた研究は10件でしたが、その他にも各研究員はそれぞれのテーマで活動を進めており、既に顕著な成果を上げているものもあります。この研究員による研究プロジェクトにも学生が参加しているものがあり、学生に新しい学習と経験の場を提供しています。さらに、今年度は16回の研究員による研究交流会(サロン)が開かれ、14回のセミナーを中心としたイベントが開かれました。本誌に掲載された活動のそれぞれに、参加者の発見と学びがありました。研究所のセミナー等の多くは、上記の教育改善事業の一つと位置づけ、学生や学内に公開されています。来年度はより多くの教員および学生の積極的な参加を期待したいと思います。



▶ 研究セミナー

「これからの世界で君ができること」

平成24年度文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」における本学の取組では協力企業からテーマ、問題提起をいただき、学生と共同でプロジェクト研究活動を行い、課題解決策を提案することになっている。そのスタートアップセミナーとして、多くの企業、団体等とかわりをもつ 電通コミュニケーションデザインセンターのディレクター、樋口景一氏を講師としてお迎えし、プロジェクトにかかわろうとする学生を対象に、企業が持つニーズをどう理解するのか、これから社会に出る学生にどのような可能性があるのかということをお話していただいた。樋口氏は手掛けたプロジェクトを具体例に制作の進め方、プレゼンテーションについてお話していただき、「コミュニケーションデザイン」について理解が深まった。多くの学生が聴講し、「ideas for goodが評価の大きな基準になっているというお話が印象的でした。」「アイデアとは誰かのために思って作っていくものという言葉に感動しました。」「社会人になることが不安でしかたなかったけれど、この講演を聞いて楽しみになった。私も色々なことに挑戦して、様々な仕事につなげていけるようにしたい。」と前向きな感想が多く、講演タイトルである「これからの世界で君ができること。」を個々に考える良い機会になったのであろう。(文責：現代ビジネス研究所)



開催日時：3月30日(土)14:00～15:30

場所：人見記念講堂

講師：株式会社電通
樋口景一氏

「これからの世界で君ができること2」



資生堂は、雑誌「日経ウーマン」で「女性が活躍する企業」の第2位にランクインされるほど、女性の活躍が目覚ましい会社だ。澁谷氏は、学生時代のほとんどをバンド生活に費やした。就活の時期が迫り「資生堂ならおしゃれな仕事ができるかもしれない」と思い、担当教授に「4年間のバンド生活を通して、ステージにおけるプレゼンテーションおよび顧客とのコミュニケーションを体得した」という推薦状を書いてもらう。入社後、クリエイティブディレクター、アートディレクターなど、様々な仕事があったが、澁谷氏は「デザイナーよりもカッコいい仕事がしたい」と思い、音楽とアート、ファッションの間でデザインをすることを考えた。他人の作品を真似てデザインするよりも、推薦状に書かれた内容通りの仕事をしようと決意した。そのために、とにかく目立つこと、人を巻き込むこと、のインタラクティブを重視した。話の後半では、参加者から集めたWork1(意図を伝えるデザイン)とWork2(印象＝記憶に残るデザ

イン)を比較検討した。デザインは目的ではなく、目的を果たすための手段に過ぎない。言葉で表すよりも見せて感じさせるのがビジュアルコミュニケーション。そのための条件は、①(伝わる)速さ、②(外国人にも伝わる)広さ、③(情報の)深さの三要素が大切。これらを1秒以内で伝えることにより、世界中の誰とでもたくさんの情報を共有できる。

資生堂には多くのデザイナーがおり、ブランドイメージという価値を創造している。綺麗を超えた輝き、輝くパッケージ、そのブランドでない手に入れられないもの、つまりデザインを通じた資生堂のファンづくりを目指している。独自のストーリー(イメージ)づくりと(人と)ふれあい続けるサイクルが感動という種をまく。資生堂は美を作る会社で、いろんな美を見せる、そして美の楽しさを伝える。つまり、資生堂は人と「美」でコミュニケーションしている。見えていなかったものをクリアにし、それを鮮明な形で伝えるのがデザイン。デザインの効用は、見えていないものを発見すること、新しい価値や意味を創出すること、見えてなかったものを形にすること、欲望を創出すること、欲望を拡散すること。デザインは経営そのものであり、デザインを意識してデザインと友達になること。デザインの優れた企業ブランドを作っていくことを、これからの君たちに期待したい。

(文責：研究員市村のぼる)

開催日時：6月29日(土)13:30～15:00

場所：オーロラホール

講師：株式会社資生堂 宣伝制作部
エグゼクティブクリエイティブディレクター
澁谷 克彦氏

「21世紀を生きる君に学んでほしい、 りょく ホスピタリティカ」

「ホスピタリティ」を「おもてなし」だけでなく、主客コミュニケーションとサービス価値の観点から説明し、より広い概念として理解してもらう。そのうえで、学生が社会に出るにあたり、生活環境の場でも、就業の場でも、避けられない対人関係から、主客双方に価値を生み出すことができる力として「ホスピタリティカ」がとても重要であることを理解させる。同時に実際のサービス企業（日本航空）において、「ホスピタリティ」が現場と企業経営にとり、どのような重要な役割を担っているかを、また「ホスピタリティカ」習得のためにどのような思考と行為が必要であることを提示する。前半30分（竹中研究員）は、21世紀の社会経済環境が「高度グローバル化」となり、一方で価値観が「モノの充足から、心の充足」にシフトしていること、すなわち体験的には異文化への接触機会が増えること、また就業する企業の活動がサービス化していることであり、この環境・職場では「ホスピタリティカ」が重要な能力となることを説明した。後半50分（鈴木氏）は、典型的な対人サービス業種である航空客室サービスの現場から、顧客価値の差別化要素である感情価値を生み出し高めるための「ホスピタリティ＝おもてなし」を企業再生努力の紹介の中で説明し、更にサービス提供者に求められる「ホスピタリティカ」の向上に資する自己訓練の重要性を実践的に説明した。

（文責：研究員竹中哲也）

開催日時：11月16日（土）13:30～15:00

場所：オーロラホール

講師：日本航空客室品質企画部客室教育・訓練室
アドバイザーグループ長 鈴木 晶子氏
昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員 竹中 哲也氏



プロジェクト研究発表会



2012年度に本学学生と教員が取り組んだプロジェクト研究の報告をし、連携企業や自治体等の関係者とともに、その成果について検証し、次年度への取り組みおよび教育プログラムに反映するものです。「健康「美」プロジェクト」「催事販売型インターンシップ」「桜新町ねぶたコラボ」の3つの発表がありました。聴講者からは鋭い質問もありましたが、発表学生は活動してきた成果に基づいて堂々と回答していたことが印象的でした。本年度も3月1日にプロジェクト研究発表会を開催します。

所員・研究員交流会



11月7日に現代ビジネス研究所研究員・所員交流会を開催しました。所員の先生方にご自身の専門分野と研究所に期待することをお話いただき、自由に懇談をしました。研究員は研究分野が近い所員の先生とお話したり、所員の先生方の行っているプロジェクトの内容を聞いたり、話しが尽きない様子でした。所員の先生方も研究員も互いに良い刺激になる会となりました。

▶ 公開講座

「プロジェクト研究法入門と全体会議」

開催日時：6月1日13:30～17:00

場所：大学1号館7L34教室

講師：グローバルビジネス学部
久原正治学部長

快晴の6月1日(土)午後、現代ビジネス研究所設立後初となる公開講座と全体会議が開催された。まず坂東学長の挨拶があり、「学生、教員との協業のアイデアをどんどん出してほしい。研究所が日本の大学に新しい1頁を加えることを期待している」とのメッセージが伝えられた。学長が繰り返し発信しているこのメッセージから、研究所の活動に対する期待の高さを感じられた。続いて、記念すべき第一回の公開講座となった「プロジェクト研究法入門」の講義では、久原副所長より社会科学の研究法、データの収集と分析、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方の4つのテーマにわたる解説があった。研究助成金の審査結果が研究員に通知されてまだ日も浅いこともあり、研究員にとって非常にタイムリーな内容となった。講義の冒頭では助成金プロジェクトの審査についての説明もあり、30件に及ぶ申請から選ばれた10件のテーマが披露されたが、惜しくも助成対象とならなかった研究テーマについても目的と意義をより明確にし、ぜひ世の中に貢献する研究として進めてほしいとの期待の言葉が添えられた。銀行勤務だった副所長が曲折を経て大学で教鞭をとることになったプロフィール紹介も、多くの研究員にとって感慨深かったに違いない。この日最後の議題である全体会議では、研究員が6つのグループに分かれ、今後の公開講座とサロンの運営担当者を選出した。各担当者のリードにより、それぞれの活動が軌道に乗っていくことを期待したい。(文責：研究員丸山智靖)

「視聴率の次に目指すもの」

開催日時：7月20日 13:30～15:00

場所：大学1号館7L34教室

講師：テレビ朝日コンテンツビジネス局 CS事業部
シニアマネジャー 渡辺慎一氏

テレビ朝日は昨年度下期、開局以来初の視聴率3冠王(全日、ゴールデンタイム、プライムタイムで民放視聴率トップ)を獲得した。過去、1960年代、70年代はTBSが圧倒的に高視聴率の時期があり、その後、フジテレビや日本テレビがそれぞれ視聴率トップを続けてきたが、ここ数年、テレビ朝日が進めてきた戦略が功を奏した。具体的には、深夜帯に実験的な番組を投入して若年層にテレ朝ファンを増やし、年齢が上がっても見続けてもらえるようにした。サッカー日本代表戦や世界水泳という圧倒的に強い「新商品」を獲得できたことも大きい。さらに、2011年度からの3ヵ年経営計画で「作りたいものを作るのではなく、視聴者、広告主に支持される番組作りをする」という当たり前のことを徹底した。だが、テレビ局として地上波の視聴率だけに頼る時代は終わりに近づいている。録画視聴(によるCMスキップ)等により、媒体としての地上波の影響力は低下をよぎなくされている。ネット経由のコンテンツをテレビ放送と並べて画面上に映し出す「スマートTV」も登場した。米国では、地上波の番組をサーバーに蓄えてネット経由いつでも視聴できる個人向けサービスが始まった。「コンテンツ総合企業」として、「TV anytime」「TV anywhere」を実現できるかどうかが鍵だ。そのためには、クリエイターとして優秀な人材とともに、出来上がったコンテンツをマルチプラットフォームに展開するビジネス構想力を持った人材が求められている。(文責：研究員前田純弘)

「いま企業で求められるのは、 『新しい価値』を創造できる人材」

開催日時：10月26日13:30～15:00

場所：グローバルラウンジ

講師：住友商事株式会社 グローバル教育事業チーム長
河野純子氏

今年4月から東京インターナショナルスクールと共同で、グローバル教育事業を始めた。幼稚園、学童保育向けにカリキュラムを開発して販売する事業だ。現在、モデル校が都内に2校ある。「自分自身と社会に責任を持ち、自信を持って、英語で自分を表現できる人を育てることがコンセプト。これを100校に広げることが目標だ。大学卒業後、雑誌の仕事が良かったが、大手出版社は当時、「女性は自宅から通える人のみ採用」などとしていたので、「そのような差別をする企業は長く続かないはず」と割り切り、リクルートを選んだ。リクルートは、男女の差別なく、最初からたくさんの仕事を任せてくれた。特に女性は、いつキャリアが中断するか分からないので、とてもありがたいことだった。「とらば一ゆ」の編集長だった44歳の時に、縁あって住友商事に誘われ、転職した。

私の経験から「新しい価値を創造するため」の条件は、①今、世の中にどんな不安、不満があるか。まずは自分自身をマーケティングする②どんなビジネスモデルならその不安、不満を解消できるのか、いろいろなビジネスの仕組みをフットワーク軽く勉強する③志に共感してくれる仲間をどんどん集め、みんなの力を借りる④生みの苦しみを楽しむ。そのために、自分なりのストレス解消法を持っておく、の4つだ。大学生の皆さんには、4年間はまず勉強を、と言いたい。採用面接で「大学時代はアルバイト頑張りました」という人より「こういう勉強をして、それをこういう形で社会に役立てたい」と言ってくれる人の方が、一緒に仕事したいと思う。(文責：研究員前田純弘)

助成金採択プロジェクト

現代ビジネス研究所では、研究員の研究活動を支援するために優れた研究に対して研究経費の一部を助成しております。2013年度は30件の応募があり、審査の結果、下記10件を採択しました。研究員間での共同研究や、本学学生と協働して進めている研究もあります。年度末には現代ビジネス研究所で報告書をまとめ、報告会を開催します。

研究員名	プロジェクト名
1 青山 大蔵	都市型商業施設における地域文化振興循環システムに関する研究 (渋谷ヒカリエを拠点としたソーシャル・プロジェクト活動の事例検証)
2 白田 明子	世田谷公世田谷で中高生の公共の放課後用施設は必要か?
3 大橋 重子	SWUライフキャリアイメージサーベイプロジェクト(SWU LC1サーベイ)
4 高畑 正	新座市の地域通貨(アトム通貨)の活用による地域活性化についての研究
5 但本 伸子	「なでしこ銘柄」と企業価値の研究
6 田村 真理子	実践的な起業家教育とキャリアアクリエイト
7 前田 純弘	デジタルネイティブのメディア接触状況調査
8 松本 考史	星空から地域コミュニケーション ー広く地域住民の為に活用する方法の模索ーの研究
9 森本 陽子	縮小するリアル社会、拡大するネット社会における“つながり”の意味 ～若者の「コミュニケーション能力」考察から
10 山口 理栄	育児休業取得者と職場とのコミュニケーションに関する研究

Pick UP!

前田純弘研究員が学生との協働プロジェクトにおいて、株式会社NTTドコモモバイル社会研究所が主催する「第4回ケータイ社会研究レポートコンテスト2013」の大学・短大部門の優秀賞を受賞しました。



論文題名:

世代間のリテラシーの差を意識した若者世代から変えるコミュニケーションの可能性

発表学生:

島山美香(現代教養学科3年)

石川穂乃実(日本語日本文学科1年)

稲村ひかる(環境デザイン学科1年)

研究員サロン

現代ビジネス研究所では月2回研究員サロンを開催しています。毎回研究員や本学教員が発表をし、その発表に対して議論をします。発表内容は助成金採択者の中間報告や、研究員自身の研究報告等、内容は多岐に渡ります。また、「一言タイム」という時間を設け、自身の研究について異分野の研究員に相談をし、またその時の旬の話題について短時間の意見交換を行います。



開催日	テーマ	発表者
6/22	サロンのテーマ・運営方法について	丸山智晴研究員 山野浩研究員
7/11	プラネタリウム業界から公共資産の活用を考える	松本考史研究員
7/27	グローバル編集TOKYOプロジェクト	杉本宏研究員
8/8	産業界が求める人材の具体例と現状について	大橋重子研究員
8/31	学生による商品開発プロジェクト～化粧品～	奥村知子研究員
9/12	世田谷に公立の中高生放課後対策施設は必要か	白田明子研究員
9/28	海外との知的対話海外との知的対話	今井章子特命教授
10/10	地域通貨による新座市の活性化	高畑正研究員
10/19	グローバル化と日本型経営	佐野良伸研究員
11/7	所員・研究員の交流会	—
11/30	サロンについての意見交換会	—
12/12	サロン運営方法についての検討会	—
1/11	「ケータイ社会研究レポートコンテスト2013」 優秀賞受賞記念 世代間のリテラシーの差を意識した 若者世代から変えるコミュニケーションの可能性	島山美香(3年) 石川穂乃実(1年) 稲村ひかる(1年) 前田純弘研究員
1/30	資産運用の基礎	川野輪英子研究員
2/8	NPO活動/こうすると失敗します	岩松二郎研究員
2/20	現在の教育ニーズと大学が研究員に期待すること ー女子大生との接し方ー	飛田史和教授

「昭和デザインオフィス」は、大学と企業や地域との多様な協働環境を創出し、プロジェクト研究に取り組む学生の教育・学習支援を行うアクティブラーニングの活動拠点で、「現代ビジネス研究所」の1セクションとして機能します。「昭和デザインオフィス」は全学生に開かれた組織であり、学生誰もが参加できる環境を整えている施設です。

「昭和デザインオフィス」は、企画、デザイン関連の教員が中心となって指導し、各学科の教員と学生のデザインを介しての交流を行うことで教育効果を上げられると考えています。設備面も最新の企画・デザイン関連の機器を導入し、実社会のオフィスと同等の業務を大学内の施設で行っていくことがこのデザインオフィスの目的です。

プロジェクト名	コラボ先く担当者
<p>1 三茶・三宿まちなかプロジェクト</p> <p>世田谷公園売店改善プロジェクト</p> <p>木曾漆器デザインプロジェクト</p>	<p>下の谷酒店街・三宿四二〇商店街・太子堂商店街く鶴田佳子</p> <p>世田谷サービス公社・三宿四二〇商店街・世田谷ものづくり学校く鶴田佳子</p> <p>財団法人堀辰木曾地域地場産業振興センターく横園靖子</p>
<p>2 まちおこし応援プロジェクト 三軒茶屋 一学生によるよさこい祭りの広報・運営</p>	<p>三軒茶屋銀座商店街振興組合・早稲田大学踊り侍く木村信之</p>
<p>3 フラッグのわプロジェクト</p>	<p>下北沢音楽祭実行委員会・世田谷区北沢総合支所く橋倫央</p>
<p>4 渋谷-Shibu-san- made in Shibuya product</p>	<p>(有)アクリアル・山田照明株式会社く橋倫央</p>
<p>5 桜新町ねぶたプロジェクト</p> <p>とちぎ女子いちご普及応援プロジェクト</p> <p>「三茶さんちやを楽しもう!」 プロジェクト</p>	<p>桜新町商店街振興組合く田村圭介</p> <p>栃木いちご王国株式会社く潮沼頼子</p> <p>浦井18大学世田谷区商業政策課、世田谷区消費政策課、茶澤通商店街、まちづくり公社、協力団体:世田谷区消費生活連合会・世田谷区清掃・リサイクル課く潮沼頼子</p>
<p>6 配財プロジェクト with SWU</p> <p>健康体操リーダー養成講座&派遣事業</p>	<p>一般社団法人配財プロジェクト・地域(墨田区、世田谷区、渋谷区)の廃材発掘→配財への展開を図るく金子友美</p> <p>区立社会福祉協議会く渡辺剛</p>
<p>7 世田谷美術館「SeTaBi Café」 ピクニック・ランチボックス(PLB)プロジェクト</p> <p>Bunkamuraル・シネマ×昭和女子大学 ミニシアター・プロジェクト</p> <p>世田谷芸術文化プロジェクト</p> <p>ホンノバ・プロジェクトー渋谷から東北へー 本による交流の場を作ろう!</p> <p>手をつなごう♪ 下馬福祉工房&福祉社会学科コラボカフェ</p> <p>輝け☆健康「美」プロジェクト</p> <p>せたがや育ちの野菜</p> <p>ポケットガーデンボランティア活動</p> <p>東京都中小企業連合会との コラボによるデザイン活動</p> <p>催事型インターンシップ (法政大学を中心とする7大学の活動)</p>	<p>株式会社世田谷サービス公社・世田谷美術館く粕谷美砂子</p> <p>文化村ル・シネマく福田淳子</p> <p>世田谷文化財団く福田淳子</p> <p>日本ユネスコ協会・伊東建築塾・朝日新聞社く杉浦久子</p> <p>区立下馬福祉工房く伊藤純</p> <p>TRC他く小川聡美</p> <p>せたがやの農業者く石井幸江</p> <p>国交省等く潮沼頼子</p> <p>メッキ加工の会社ヒキフネとのコラボく横園靖子・橋倫央</p> <p>十条商店街とのコラボ:昭和の学生8名参加</p> <p>渋谷センター商店街振興組合く友田博通</p> <p>渋谷駅前共栄界 桜丘町会く友田博通</p> <p>はこねのもり女子大学く橋登貴久</p> <p>亀屋商店く石井幸江</p> <p>世田谷区都市農業課く石井幸江</p> <p>写真家:川津貴信・大高英樹・岩崎昭昭く石井幸江</p> <p>健康デザイン学科健康美プロジェクトく芦川智</p> <p>産学連携のプロジェクトく金尾明</p> <p>東明学林を経由しての依頼く不破真佐子</p> <p>同上く芦川智</p> <p>株式会社オルセンとコラボく橋倫央</p> <p>NPO 勇気の翼インクルージョン環境デザイン学科服飾DMコース学生参加 く石塚進子・小森聖紀子</p> <p>法政大学主催(7大学)く昭和デザインオフィス</p> <p>東大主催(7大学)く昭和デザインオフィス</p>
<p>8 渋谷センター街七夕まつり</p> <p>渋谷桜丘町づくり-Beyond 246-</p> <p>昭和女子大学薬袋ゼミと「はこねのもり女子大学」による 箱根地域の新たな魅力・「はこじょ」創造プロジェクト</p> <p>Sweets dream -setagaya-(新しい和菓子の提案)</p> <p>世田谷そだちの野菜料理レシピの提案</p> <p>学生対象の料理写真を上手に撮影するコツ講習会</p>	<p>10 大井町役場からの依頼(芋のレシピ)</p> <p>大井町役場からの依頼(直売施設の店舗デザイン)</p> <p>オルセン(繊維メーカー)からの依頼(学生のアイデア募集)</p> <p>催事型プロジェクト 「勇気の翼ファッションショー」</p> <p>産業界のニーズに対応した教育改善事業:産学連携ビジネス コンテスト参加(法政大学主催7大学より希望者を募ったもの)</p> <p>食育インターンシップおさかな教室</p>

